

令和4年度行政評価 施策評価シート (令和3年度実績)

施策名 歴史文化の保存活用

施策コード 5010103

1. 施策の担当	
主管課	教育部 文化財保護課
関係課	生涯学習課

2. 総合計画における位置づけ				
総合計画	政策	第1章 地域の強みを生かし、賑わいを創り出すまちづくり (活力・賑わい)	節	第1節 観光
	施策	歴史文化の保存活用		

基本方針
地域の歴史・文化を伝える貴重な文化財を、すべての市民が親しみを持ち、誇りを持つことで、地域の活性化につながるよう保存と活用をめざします。

現況と課題

- ・市内に保有する様々な文化財を地域の重要な歴史遺産として親しみ、活用するために観光資源化を推進することが求められています。
- ・史跡日根荘遺跡の周知看板及び整備にかかる計画を年次的に進め、所有者等と適切な史跡の保存と活用に向けて事業を実施していますが、整備に向けては民有地の管理問題が大きな問題となっています。
- ・史跡及び建造物の維持管理が必要です。
- ・文化財所有者・管理者の後継者不足の解消と技術継承が課題です。
- ・開発等による埋蔵文化財の調査、出土文化財等の適切な保存・活用に向けた行政・教育・地域住民との連携を強化するとともに、泉南地域自治体の文化財業務の広域連携化が必要です。
- ・文化的景観の選定地区は、現在、大木地区の日根荘大木の農村景観のみですが、土丸・日根野地区を将来追加する必要があります。
- ・博物館相当施設「歴史館いずみさの」の市内文化財の魅力発信拠点としての活用が必要です。
- ・佐野町場に点在する文化財の建造物と歴史的まちなみの保存と活用が求められています。
- ・葛城二十八宿のひとつである犬鳴山七宝瀧寺とその周辺は、修験道の道によって古来より河内・大和・紀伊と密接に結びつき、戦国時代には雨乞いの祈禱を託すなど地域の拠り所であり、今後も葛城修験の霊場の保存と活用が求められています。

施策目標
対象 (誰を、何を、どこを)
市民

意図 (どのような状態にしたいのか)
市民が泉佐野市固有の歴史遺産を知ることで、郷土意識の向上を行う。また、地域の文化財を地域で守る体制や支援づくり、学校及び地域活性化につながる連携した施策づくり。

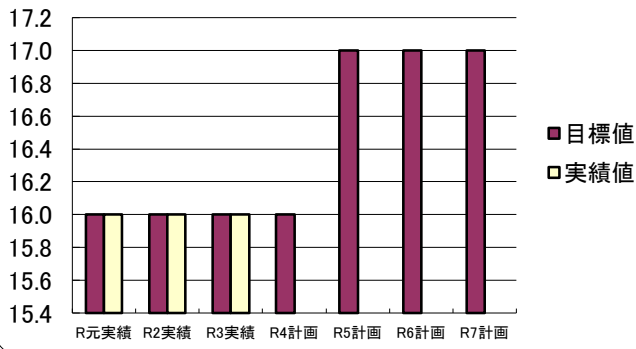
3. 市民ニーズ								
		H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
満足度 (偏差値)		64.2						
重要度 (偏差値)		46.1						

4. 施策にかかるコスト								
		単位	R2決算	R3決算				
コストの内訳	人件費	千円	30,176	31,036				
	事業費		75,853	59,168				
	フルコスト		106,029	90,204				
財源内訳	国庫支出金	千円	5,426	784				
	府支出金		183	480				
	市債		0					
	その他		2,313	17,995				
	一般財源1 (=フルコスト-特定財源)		98,107	70,945				
	一般財源2 (=直接事業費-特定財源)		67,931	39,909				

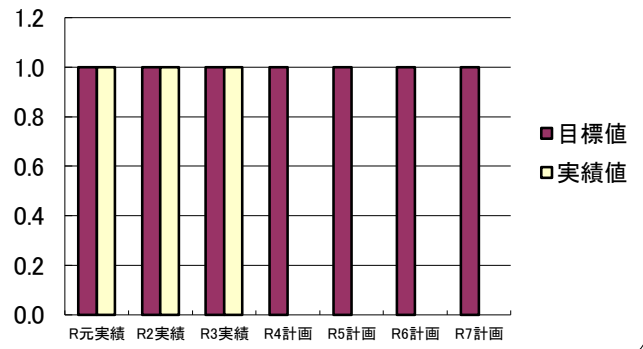
5. 施策の重要業績成果指標(KPI)							
① KPI 1 史跡日根荘遺跡の総指定箇所数							
項目	R元実績	R2実績	R3実績	R4計画	R5計画	R6計画	R7計画
目標値	16.0	16.0	16.0	16.0	17.0	17.0	17.0
実績値	16.0	16.0	16.0				
達成度	100.0	100.0	100.0				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
市内日根野・土丸・大木地区に広がる本史跡については、平成14年の保存管理計画に基づき、順次追加指定をすることで史跡の内容充実をはかり、将来豊かな地域づくり、人づくりに役立てられるよう適正な保存管理と活用をめざします。		保存管理計画書で策定した追加指定候補地の計画による。現在、史跡保存管理計画書の策定済み、単年度目標値を変更した。		16地点目の指定地として土丸・雨山城跡が追加指定された。			
② KPI 2 歴史的・文化的景観の保護活用にかかる計画地区数							
項目	R元実績	R2実績	R3実績	R4計画	R5計画	R6計画	R7計画
目標値	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
実績値	1.0	1.0	1.0				
達成度	100.0	100.0	100.0				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
市内に所在する歴史的建造物や文化財とそれを取り巻く良好な自然環境等を総合的に保全活用するためには計画策定が必要となる。計画を策定することによって景観を積極的に保全する施策を推進することができる。		対象となる地区の持つ景観資源の確認、住民の意向を確認しながら計画策定をする必要があるため、現在策定済の大木地区の景観保護を進めながら、10年間でさらに1箇所の計画策定を目指すこととした。		大木地区の景観保護を進めている。			
③ KPI 3 旧新川家住宅・旧向井家住宅の入館者数(延べ数)							
項目	R元実績	R2実績	R3実績	R4計画	R5計画	R6計画	R7計画
目標値	5,270.0	5,320.0	5,370.0	5,420.0	5,470.0	5,520.0	5,570.0
実績値	6,162.0	3,351.0	5,706.0				
達成度	116.93	62.99	106.26				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
泉佐野市指定文化財の旧新川家住宅・旧向井家住宅の公開と活用を推進する。		旧新川家住宅の実績値をベースに平成30年度から目標値を5,220人として、そこから年間50人の増加を目標とした。		依然新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、回復傾向にある。			
④ KPI 4 歴史館いづみさのの年間利用者数(延べ数)							
項目	R元実績	R2実績	R3実績	R4計画	R5計画	R6計画	R7計画
目標値	11,250.0	11,300.0	11,350.0	11,400.0	11,450.0	11,500.0	11,550.0
実績値	13,192.0	4,534.0	5,132.0				
達成度	117.26	40.12	45.22				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
歴史館いづみさのの利用者数を把握することで、市民の歴史文化に関するニーズに対して情報発信ができていくかどうかの指標となる。		平成27年度から指定管理者制度を導入し、平成27年度実績10,065人から年間50人の増加を目標としたが、5次総計において目標値を見直し、令和元年度の目標値を11250人として、そこから年間50人の増加を目標とした。		新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛等の社会的な要因や、同じく新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための休館及び一部行事の中止・変更等により利用機会が減少したこと等により、利用者が減少した。			
⑤ KPI 5 歴史館いづみさのの利用者満足度							
項目	R元実績	R2実績	R3実績	R4計画	R5計画	R6計画	R7計画
目標値	95.5	96.0	96.5	97.0	97.5	98.0	98.5
実績値	96.0	98.4	99.2				
達成度	100.52	102.5	102.8				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
市民の郷土の歴史及び文化に対する関心を高めるために行っている各種事業についてのアンケート調査により、利用者の満足度を把握することで、歴史館いづみさののより一層の活用を図る指標となるため		平成26年度～平成29年度の目標値90%を見直し、平成30年度から目標値95%とし、以降0.5%アップを目指すこととした。		展覧会・講演会・自主講座等それぞれの事業で高評価を得たことによる。			

図表

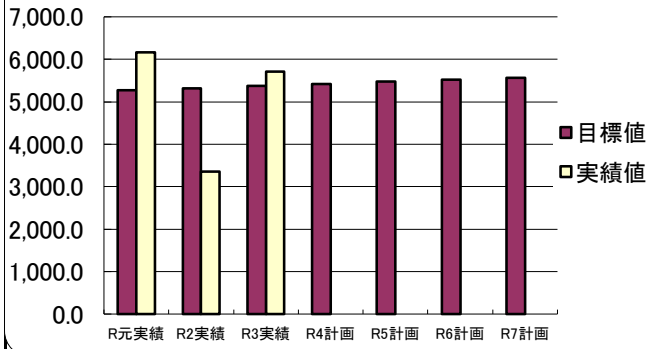
KPI①



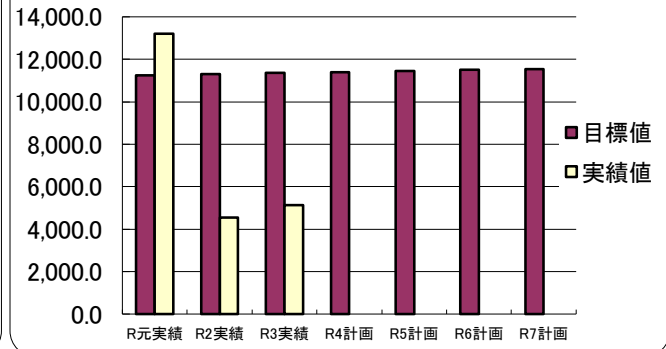
KPI②



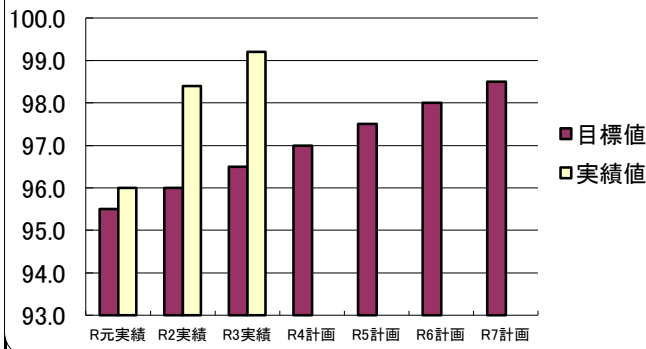
KPI③



KPI④



KPI⑤



6. 施策の事後評価			
一次評価 (担当課による評価)	判定項目	評価点	評価理由、今後の方向性等
	施策の成果レベル (過去の推移、周辺市との比較なども含む)	(4点中) 3	令和元年度に日本遺産に認定された、中世より継続した農村景観を持つ荘園遺跡として全国で初めての国史跡である日根荘遺跡は、全国的にも非常に貴重な中世荘園故地であるということを周知するために継続した成果が必要である。また、令和2年度には新たに2つの日本遺産(北前船寄港地・葛城修験)が認定された。地域の活性化をはかるため、それら関連する文化財を整備・活用し、効果的に発信していくことが求められている。
	施策に対する市民ニーズ	(3点中) 3	文化財の所有者や地域の住民に対して文化財保存の意識を高めるとともに、地域社会に活かされる文化財となるよう広報や普及行事などを通じて継続的な施策を展開する。
	施策を取り巻く状況 (法令等の動向、国・府の政策の動向、社会潮流など)	(3点中) 2	文化財保護法、府及び市文化財保護条例に基づく文化財の保存をベースとして、文化的景観や史跡をはじめとした地域の文化財を保存活用することで、地域の活性化につながる基礎づくりが必須である。日本遺産をはじめ、各地で文化的景観や史跡をはじめとする文化遺産を地域活性化や観光振興へ活かす取り組みも広がっていることから、日根荘や文化的景観などの果たす役割が大きくなっている。
	合計点	(10点中) 8点	
総合評価	B	施策の目的を維持できた。	
二次評価 (政策推進課・行財政管理課による評価)	B	引き続き、歴史的資源を活用した地域の活性化に努めること。	
三次評価 (理事者による評価)	B	引き続き、歴史的資源を活用した地域の活性化に努めること。	

7. 施策を構成する事務事業							
事務事業			R3年度決算額			R4年度予算	一次評価
予算コード	事務事業名	人件費	事業費	一般財源			
1	01061100	史跡等保存事業	12,879	22,282	5,160	0	A
2	01061300	庁舎管理(文化財保護課分室)事業	5,100	3,117	3,117	0	B
3	01061400	文化財保存事業	7,077	1,372	-6	0	B
4	01061700	文化財施設管理事業	2,955	5,541	4,782	0	B
5	01083248	歴史館管理運営事業	3,025	26,856	26,856	0	B
合計			31,036	59,168	39,909	0	